

犬と人が共存する未来 -犬のために私たちができることは何か-

本論文では、動物福祉先進国として名高いドイツを筆頭に、様々な国の政策や保護施設を調べ、日本との違いや問題点に触れた。そして日本が動物福祉先進国になることはできるのか。またドイツのような、動物福祉先進国として名高い国になれるのかどうかを調べた。

第1章では、犬と人間の歴史について触れ、序章の第1節の犬と人間の関係の深まりを追求した。ペットとしてだけではなく、サービスドッグとして人間を助け、野犬として生活している犬など、様々な犬がいることがわかった。第2章では、犬の殺処分について触れ、殺処分間近の犬を保護し、民間団体側がパンク状態になっていることがわかった。第3章では、保護犬カフェなどの動物カフェに関して書いた。実際に保護犬カフェにも足を運び、ニュース等にある、動物カフェの劣悪な飼育環境とはどう違うのかを見た。実際に保護犬カフェに行ってみると、想像とは違い、1頭1頭の性格を把握し、綺麗な店内にすごしやすい雰囲気であった。記事などで見るカフェとは違う雰囲気であり、お店側だけでなくお客さん側も犬のことを第1に考え、ルールを守った動物カフェを運営することで、犬にとってもメリットが生まれるのではないだろうか。第4章では、動物福祉先進国として名高いドイツを筆頭に、アメリカ等の様々な国の活動やしぐみ、保護施設等について追求した。外国のしぐみや保護施設をみると、日本には日本なりの進み方や、やり方があるように感じた。外国を追いかけるのではなく、日本なりの道があると感じた。

本論文では、今の日本が動物福祉先進国になることは程遠く、動物福祉先進国として名高いドイツのようにするには時間がかかるのだということが分かった。しかし、日本には日本の歴史があり、「犬を助きたい」という気持ちで活動している人は多くいることが分かった。

その裏で、犬で履歴を得ることや、人間のことしか考えていない人も多くいることが分かった。そして日本はドイツやアメリカなどと比べ、遅れをとっていると感じた。書籍やブログ、テレビ等を見ても、「これだけしか法改正できなかった。」とネガティブな意見が多いように感じた。しかし筆者はこれが大きな一歩であり、他国と比べるのではなく、日本には日本の動物愛護の歴史があり、他国には他国の歴史がある。「こうなりたい」と願うことは大切だと考えるが、今私たちができることをみるメルことが大切であり、今の状況を悲観して見ることは間違っているのではないかと感じた。法改正も、「これだけしか改正できなかった。」のではなく、この改正をなるべく全国に浸透させることが次に繋がっていくのだと感じた。アニマルポリスに関して、アメリカと比べると立ち位置は低いように感じたが、1頭でも多くの犬を助けることによって、さらに先にすすむことができると感じた。そして他国のいいところを盗み、日本の形に変えていくことが大切なのだと、本論文を通して感じた。